

障がいを理解するための「絵本」制作の試み (第5報)

－基本概念と「絵本」の効果および評価について－

平林 あゆ子

Making a Picture Book to Promote Understanding of Children with Disabilities (V) : The Basic Concept and Effect of the Picture Book as well as the Evaluation of the Picture Book

Ayuko HIRABAYASHI

1. はじめに (問題と目的)

2006年12月に国連で「障害者の権利に関する条約 (障害者権利条約)」が採択された。それらの教育条項は誰をも排除しない教育制度として、インクルーシブ教育を原則としている。日本の教育界では、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への「特別支援教育」の取り組みが2007年4月から始まった。「障がいの有無に関係なく共に育ちあう」というインクルーシブ保育・教育が広がる中で、障がい児と健常児の相互理解の工夫が求められている。筆者は障がいを理解するための絵本 (以後「絵本」と記す) を制作し、相互理解の取り組みを2002年からすすめている。小児科医や保育者、保護者、学生などと協力して障がいに関する「絵本」を制作し、現場での活用を試みてきた。教育・保育の場における「絵本」の読みきかせにより、特に保護者の障がいに対する理解が進み、親同士の歩み寄りができたとという実態が明らかになってきた。「絵本」は、子どもに活用されることはもちろん、大人も含んだ障がい児の周辺に有効に活用されることを期待している。

「絵本」制作の目的は、「絵本」により子どもたちや大人が「障がい」や「違い」の理解を深めて、インクルーシブ保育・教育を促進することにある。筆者は「絵本」制作と同時に主に「絵本」を通して障がい理解と人間理解の深化を目指した実践の構造について「絵本による障がい理解の基本概念 幼児期」という仮説を考案し図式化した。そして制作した「絵本」(現在17冊以上) を使って幼児教育の場で実践した結果、基本概念の仮説は現実に合ったものとの確信を得た。

本稿の前に発表した論題は第1報では当面の制作した絵本についての紹介と考察、第2報では「障がい理解」の実践と本質をテーマに、幼児教育を担う学生に対する「絵本」を使った教育プログラムの実践と、障がい理解の基本概念の仮説を考案し図式化した。第3報では研究の進展に必要なと思われる基礎的な資料として、保育所における障がい児の実態について調査し考察した。第4報では自閉症をテーマとしている絵本『たっくん』の幼児教育の現場における読みきかせ効果と、保育者の意見、障がい児・小児神経医学などの専門家の意見を質問紙やインタビューにより検討し考察した。本稿では、その基本概念図に現在までに制作した「絵本」名を入れて報告しておく。さらに、制作した絵本の内、評価が高かった「絵本」の幼児教育の場における読みきかせ効果と、日本保育学会、日本特殊教育学会、日本小児神経学会に所属する保育者や障がい児教育・小児神経医学などの専門家の感想や意見を検討し考察したので報告する。

2. 「絵本による障がい理解の基本概念 幼児期」

「障がい理解」について、徳田 (2005: 2 - 3)¹は「障がいのある人に関わるすべての事象を内容としている人権思想、特にノーマライゼーションの思想を基軸に据えた考え方であり、障害に関する科学的認識の集大成である」と定義づけている。また、「障がい理解」の深化は、ひいては人間を評価する「ものさし」の多様化につながり、すべての人間の価値がお互いによって認められることになる」と述べている。

幼児はほとんど白紙の状態です障がい児に接することが多いので、戸惑いが大きく誤解も出てくるものと思われる。偏見や誤解なく障がい理解が促されるための媒体として、絵本は幼児にとって適切と思われる。筆者は、「絵本」作成と同時に「絵本による障がい理解の基本概念－幼児期」について表1「絵本による障がい理解の基本概念 幼児期」の概念図を仮説として考えた。この概念図について以下に述べてみよう。

「障がい理解」の第1段階はまず「人間の理解」:「障がい」の有無に関わらず、ヒトという存在を肯定し、存在を尊重し、存在に感謝する心が基本である。障がいの理解は、人間性を高めて人間関係に配慮したり、広い視野で考えていくことにつながっており、人間という存在に対する深い理解に導かれる性質のものと考えられる。

第2段階は「障がい」の基礎知識:「絵本」を媒体に「障がい」のいろいろな基礎知識を得て、自分の周りに障がいを持った人がいることに気づくことである。

第3段階は「障がい理解の基礎」:「絵本」を使用し、色々な障がいの理解を促進することである。

第4段階は「障がい理解の確認」:障がいについて絵本で知りえたこと、感じたことを基に、「絵本」の印象を描画させ、その反応や理解度を確かめる。幼児と問答したり、現実の具体的な経験と参照しながら補いが必要なら説明を加える。

第5段階は「障がい理解の実践と本質」:「絵本」の読み聞かせを实践したあとに、その効果について検討し、より効果的な方法や内容について研究を進める。

さらに、「障がい理解」に基本的に何が必要かを認識してもらい、その本質を考える。障がい理解は、「人間の理解」に通じているというよりも「基本的に人間に対する深い理解があって始めて真に障がい理解が可能である」という本質に回帰するものとする。そして直線的には段階は進まず、螺旋構造に進み、再び第1段階に回帰し学習が進むと全体の位置としては、相対的に上昇していくと考える。

¹ 徳田克己 (2005) 障害理解. 誠信書房. 2 - 3

表1 絵本による障がい理解の基本概念

—— 幼児期 ——

障がい理解の実践と本質														
<p>・ 周りにいる障がい児に対することばづかいや接し方の変化・改善点について検討する。 <アンケート></p> <p>・ 絵本を読み聞かせた後で、障がいをもつ子どもに対する態度で何か変化がありますか。又、あればどんな点が変わりましたか。(保育士)</p> <p>・ 友人や保育士、家族、大人に対する言葉づかいや接し方、改善点について検討する。 <アンケート></p> <p>・ 障がいを持たない周りの子ども達に対する態度で何か変化がありますか。(保育士)</p> <p>・ 兄弟や家族、保育士、大人に対する態度で何か変化がありますか。(保育士、保護者会や連絡帳も参考にして)</p>														
障がい理解の「確認」														
<p>障がいについての絵本を読み聞かせた後に、その反応や理解度を確かめる。</p> <table border="0"> <tr> <td><絵></td> <td><ビデオ></td> <td><アンケート></td> </tr> <tr> <td>・ 絵本の内容について特に印象に残ったことを絵に描いてもらう。</td> <td>・ 絵本を読み聞かせている時の様子をビデオ撮影に、子どもの反応や理解度を検討する。</td> <td>・ 園児の様子や反応について保育士に尋ねる。</td> </tr> </table>					<絵>	<ビデオ>	<アンケート>	・ 絵本の内容について特に印象に残ったことを絵に描いてもらう。	・ 絵本を読み聞かせている時の様子をビデオ撮影に、子どもの反応や理解度を検討する。	・ 園児の様子や反応について保育士に尋ねる。				
<絵>	<ビデオ>	<アンケート>												
・ 絵本の内容について特に印象に残ったことを絵に描いてもらう。	・ 絵本を読み聞かせている時の様子をビデオ撮影に、子どもの反応や理解度を検討する。	・ 園児の様子や反応について保育士に尋ねる。												
障がい理解の基礎														
<p>障がいというものをどう考えたらいいか、障がい児にどのように接したらよいかについて、絵本を使って理解を促す。<絵本></p> <p>ひとりぼっちのもにゃ (ちがい) よこじまシーマ (ちがい) そらいろのきりん (ちがい) たいせつなあなたへ (ダウン症) みっちゃんのいちにち (ダウン症) たっくん (自閉症) たっくん2 (自閉症) じゅんじゅん (自閉症) かつちゃん (肢体不自由) あっくんとおじいちゃん (認知症) 続赤ずきんちゃん (認知症) かみさまのおくりもの (ダウン症) ともだち (自閉症)</p>														
障がいの基礎知識														
<p>「障がい」ということばの意味やその内容について例をあげながら、分かりやすく説明する。 <絵本> しょうがいつてなあに 3ちょうめのゆうたくん (障がいへの援助)</p>														
人間理解														
<p>他の子どもにやさしく暖かい気持ちで接し、誰とでも仲良くできるようにする。さらに、家族や大人に対する適切な接し方について理解を深める。</p> <table border="0"> <tr> <td><絵本></td> <td><詩></td> <td><童話></td> <td><アニメ・マンガ></td> <td><園での日常活動></td> </tr> <tr> <td>・ たいせつなこと ・ 心のシリーズ</td> <td>・ 金子みすず</td> <td>・ 宮沢賢治 ・ イソップ物語</td> <td>・ アンパンマン ・ ドラえもん ・ とりのトロ</td> <td>・ 交流教育 (障がい児、高齢者) ・ 多文化教育</td> </tr> </table>					<絵本>	<詩>	<童話>	<アニメ・マンガ>	<園での日常活動>	・ たいせつなこと ・ 心のシリーズ	・ 金子みすず	・ 宮沢賢治 ・ イソップ物語	・ アンパンマン ・ ドラえもん ・ とりのトロ	・ 交流教育 (障がい児、高齢者) ・ 多文化教育
<絵本>	<詩>	<童話>	<アニメ・マンガ>	<園での日常活動>										
・ たいせつなこと ・ 心のシリーズ	・ 金子みすず	・ 宮沢賢治 ・ イソップ物語	・ アンパンマン ・ ドラえもん ・ とりのトロ	・ 交流教育 (障がい児、高齢者) ・ 多文化教育										

イタリック体は筆者が監修して制作した「絵本」

3. 「絵本」の効果について

3.1 方法

3.1.1 「絵本」の制作

「絵本」は、保育士志望の学生、保育者、障がい児の保護者らと共に制作している。それらの絵本を内容、表現力、完成度等で評価した。評価者は小児神経医、保育者、保育士志望の学生、障がい児をもつ保護者と筆者である。ここでは、特に高い評価を得た「ダウン症児の理解とかけがえのない存在」をテーマとした『たいせつなあなたへ (筆者監修)』を採りあげる。この「絵本」は2007年から2010年にかけて2回の改訂によりことば等を読みやすくし、広く海外の方々にも理解と共感してもらえればと願い、英語翻訳も付記した。

3.1.2 「絵本」の読みきかせ効果：2009年におけるA保育所（愛知県内）B幼稚園（岐阜県内）2010年4月にS保育所（岐阜県内）での絵本の読みきかせを行った。

(1) A保育所（愛知県内）は障がい児が在園していない園で、その園児に対して読みきかせをした。そして保育士へのインタビュー及び質問紙への回答を検討した。

(2) B幼稚園（岐阜県内）は障害児が在園している園でその園児たちの保護者対象に読みきかせをした。具体的には保護者会で保育士から絵本を読みきかせた後、連絡ノートによる保護者の反応を検討した。

(3) S保育所（岐阜県内）は障がい児は在園していないが気になる子どもが在園している園で、その園児たちに対して読みきかせをした。そして保育士へのインタビュー及び質問紙への回答を検討した。

3.1.3 障がい児に関わりのある人々による「絵本」の評価

障がい児の家族、小児神経医、小学校・中学校教育、特別支援教育に携わっている人、海外のコミュニケーション障がいについての研究者らに個別に「絵本」を読んでもらい、質問紙やインタビューにより、意見、感想などを得た。今回は英語翻訳付の「絵本」を採り上げたので、2010年7月－8月にコミュニケーション障がいを専門としている主に北欧地域の外国人の研究者や教育者らにも個別に読んでもらい主な意見や感想の記述を集約し検討した。

4. 結果

4.1 絵本『たいせつなあなたへ』の内容

ある寒い夜、赤ちゃんが誕生した。その赤ちゃんは、ダウン症と診断された。子どもの障がいを診断された時の保護者の気持ちや、赤ちゃんの「人としての存在」に対する感謝の気持ちが表現されている。また、ダウン症の原因や 障がいの特徴もやさしく説明されている。

4.2 絵本『たいせつなあなたへ』の紹介

以下は、「絵本」の表紙や主な場面である。



「絵本」の表紙



4.3 絵本『たいせつなあなたへ』の保育所での読みきかせ結果

2009年12月から2010年4月にかけての保育所、幼稚園での読みきかせ結果である。

4.3.1 A保育所での質問紙への回答と保育士の意見

2010年3月、A保育所における保育士による「絵本」の読みきかせの結果である。

(1) 保育士の意見

A保育所には障がい児がいないので、この「絵本」が色々な子がいるということに気付くきっかけになってくれたらと思う。身近にいる障がいを持つ子を周囲の人が大切にしている。そんな環境で子ども達が育っていくことができたらいいと毎日頃思っている。しかし、現実には当園のように障がい児のいない園もあるので、この絵本は良いきっかけになると思う。とてもすてきな心あたたまる絵本でした。

(2) 子どもたちの反応

「ダウン症って何?」「うつるの?」等質問してくる子がいた。保育士が小学校の頃クラスにいたダウン症の友だちのことを話すと、どの子も静かに聞いていた。年長児は十分理解できた様子であった。心の中でじっくり感じてほしいので、何度もくりかえして読みきかせたい。

4.3.2 B幼稚園での保護者の反応例と保育士の意見

2009年12月、B幼稚園での保護者会で保育士からこの絵本を読みきかせた後、連絡ノートに書かれていた保護者の手記である。

(1) 健常児の母親

・心に染み、思わず涙が…。わが子を思う気持ち、そして、今ある健康と家族の存在、笑顔…どれも「当たり前」と思ってしまうことがとても大切でもろく…。だからこそ「幸せなことなんだ」とハッとしました。とても心動かされる素敵な時間でした。

・感動し、グッときました。子どもが犠牲になる事件が多い世の中です。今一度子どもの大切さを大人が考えなくてはいけないと思います。

・絵本「じーん」ときました。普段から子どものことが心配で「大丈夫かな?」とばかり思っていますが、「にこにこ嬉しそうな子どもが大好きだし、かわいいし、とても大切。一緒に生きていきましょう」と生まれてきてくれたことに感謝することを思い出させてくれました。

・子どもが生まれた時の感動や大切さ、いとおしさなどを改めて感じました。

・「あなたがとても大切」という気持ちが伝わってきました。子どもの世界も複雑で悪質な「いじめ」があります。相手の心を踏みにじり相手の人格を尊いと思えないことがとても悲しいです。子どもに分かりやすく伝えるには…と考えた時、「かけがえのない」ということが思い浮かびました。「あなたのかわりはない」ということ、「たった一つの大切な命だということ」、そのくらいお母さんは、あなたのことが大切なんだということを話しています。相手の親も自分もみんなで子どもに向かって、「あなたが大切なんだ!!」と伝えていけば「いじめの芽」は摘むことが出来るような気がします。絵本のお母さんは「優しく強い」、この子は幸せだと思います。

・健康で元気ならいいと思うのですが、すぐに欲が出て「もっともっと」と思い、叱ってしまうこともあります。子どものいけないところは私の育て方?と思うところもありますが…。子どもの姿を見て、日々考え勉強しながら、子どもと一緒に成長して行きたいと思います。

・学校で道徳の授業を行っています。「家族の愛」は大事な学習です。とても良い絵本なので道徳の授業でも使ってみたいと思いました。

(2) 障がい児の母親

・自分の子どもが障がいを持って生まれてきたことを「自分のせいだ」と涙したこともあった。子どもの笑顔や寝顔に癒され「また、明日もがんばろう」と思う毎日。自分の子どもが障がいを持って生まれてきたことを「自分のせいだ」と涙したことや、次子が健常児であることを嬉しく思ったこともありました。でも、障がいがあるから特別ではなく、子ども達を「同じだけ愛そう」と、ずっと思っています。子どもの少しずつの成長を見ると私にとっては大きな喜びです。そして障がいを持っている子を育てることが楽しいと思えるようになってきました。子どもの笑顔や寝顔に癒され「ま

た、明日もがんばろう」と思っている毎日です。

・頭がいびつ、耳の形も左右違い、歯のかみあわせが悪く、目は下垂…など色々ありますが子どもは写真も鏡越しの顔もいつも笑顔です。私は子どもと一緒に居て本当に楽しいです。みんなと違う「見た目」をはね飛ばすためにわが子はこんなキャラクターで育てられているのかと感じています。この子がいてくれることが私には幸せで、家族のみんなが幸せ。笑顔が絶えません。絵本を通して、また気持ちの再確認をすることができました。

（3）保育士の意見

多くの保護者の心を動かすことができ、絵本のよさを感じた。良い「絵本」にめぐりあえたことを感謝している。「絵本」の読みきかせをきっかけに多くの保護者が身近な障がいについて率直に保育士に話すようになった。この絵本の効果は、わが子に多くのことを望む親の状況から生まれた時のことを思い出してもらうのに有効と思われる。

4.3.3 S 保育所での質問紙による保育士の回答

2010年4月、岐阜県S保育所での「絵本」読みきかせ後、内容理解やその影響、「絵本」の内容をより深めるための工夫などについて、保育士がクラスの観察で気づいたことや意見である。

（1）S 保育所の園児25人（年中クラス）の反応

・「絵本」の内容は大体理解出来たと思います。最後の方に大事な子だよ・・・という部分は、「みんな大事な子だよね」という語りあいがあった。
・赤ちゃんができたので、「かわいいけど、ちょっとしんばい」というやさしい声が聞かれた。また、「おんぶしてあげるよ」「かわいいからやさしくする」ということばも聞かれた。
・自分の身近なところで、障がいの人と接する事があるかどうか子ども達に聞いてみた。
・現在、園では身体障害者施設の方とのふれあいが年2回あり、自然と障害を受け入れているので、導入しやすかった。
・「みんなクラスの中にいたらどうする？」と問いかけたら、「うつるからいやだ・・・」ということばが聞かれました。それもまた本音かな？と思った。

4.4 通園施設に通う障がい児の母親の意見

2010年7月、宮城県内の知的障害通園施設に通う子どもの母親5人の感想と意見である。

○：やわらかくあたたかい絵に母の愛が感じられた。「大変だけど一緒に生きていこう」というメッセージが良かった。ダウン症の説明をブロックにたとえ、わかりやすかった。

Ku：母親の素直な気持ちが表現されている。子供がダウン症だと分かってからの母親の心の葛藤が分かりやすく表現されていて、どんな障害を持っていても大切な子供である事には変わらないというところにとっても共感を持ちました。ダウン症の説明をブロックの家に例えているところは、ダウン症がどんな障害なのかほとんど分からない私にとっては分かりにくかった。

同じダウン症の(障害のある)子供を持つ両親と障害のある子どもが読むと、自分だけが悩んでいるのではなくて、同じように悩み考えている人が多くいる事、障害を持っていても大切な子供だということをあらためて認識できます。

幼児に理解してもらうためには幼児が理解できる程度の具体的な例があると良いのかなと思います。抽象的なことは、絵本としては良いのかもしれませんが抽象的過ぎると理解してもらうという点では難しいような気がします。

Ka：とても読みやすく、幼児向けに発行されたので、難しく考える事なく、楽しみながら読むことができました。ブロックにたとえて説明するところが大人の私でもなるほどと思いました。ぜひこの本を娘に読み聞かせてあげたいと思いました。内容は娘にまだ難しかったみたいですが、イラストだけでも充分楽しめたみたいです。もう少し、娘が分かる様になればもう一度読み聞かせてみたいと思いました。

T：感動して涙がボロボロ止まりませんでした。幼児に分かりやすいことばの表現、内容の長さ、挿し絵(イラスト)が良いと思います。

また、重度の心身障害児についての絵本もあると嬉しいです。(我が子)全国の幼稚園、保育所等に配布し、保護者が一緒に読む機会をし、考える時間を設けると良いと思います。

私自身、正直、大人になってからも障害のある方を偏見の目で見ていたり、頭では分かっているつもりでも、どこかで差別していました。実際、我が子がてんかんになり、障害児となった今、やっと偏見・差別について考えるようになったのですが、やはり周りの人への説明や、理解してもらう事に抵抗があるというか、どう説明しているのか分からないのです。ということは、健常者の方、障害児・者を知らない方は尚のこと、目の当たりにしたら、どう接して良いのか分からないのは当然です。

この絵本によって、物心つく幼児期のうちから教えるというのはとても大切で必要なことだと思いました。私も幼児期にこのような絵本に出会っていれば、もっともっと心が豊かになっていたと思います。研究段階ではあると思いますが、早々にも全国に広めて頂ければ嬉しいです。

N：とても素敵な絵本をみせていただきありがとうございました。周りの人に理解をしてもらいたくてもなかなかこの様な本は販売されていなくて・・・お友だちママには、入学時に自分で紙芝居やパンフレットを作ったママもいます。支援学級に入学したものの高学年にお姉ちゃんがいる、周りに知られたくないと言うママもいます。ママの考え方も様々で難しいところもあります。

この子達がこれから生きていくにあたり周囲の理解、同世代のお友達の理解、地域の理解・・・それは社会への理解へと繋がると思います。障がい児のいる家族だけでなく、健常児のお子さんやそのご家族に・・・この絵本を見ていただきたいと思いました。

4.5 障がい児を兄弟にもつ子どもの感想

障がいのある弟（9歳）をもつ姉A児（14歳、中学2年）の「絵本」の感想文である。

私がこの本の中で一番印象に残った事は「あなたがダウン症になったのは自分のせいかもしれない」というお母さんのことばです。理由は、何回も実際に聞いたからだと思います。弟の障がいは遺伝だと伝えられたそうです。それをきいてから母は何回も「お母さんの遺伝だったんだって」と言っていました。母の気持ちは私にも痛いほど伝わってきました。この絵本を読んだとき、そのときの事を思い出しました。

これは障がい児の保護者向けの絵本だと思いました。保護者だけでなく、私のような兄弟、姉妹の方にも読んでいただきたいです。母親だけでなく、兄弟も同じ気持ちだということを伝えたいです。一緒に長く永く生きていきたい。元気に仲良く生きていきたい。大変なことも一緒に乗り越えたい。そういう気持ちがこの絵本からは伝わってきます。とても共感できる絵本でした。

4.6 保育関連の研究者・教育者、障がい児施設職員の感想、意見

保育・教育専門の大学研究者：A、保育者養成教育者：B、障がい児施設職員：Cの感想、意見である。（2010年5月）

A：大学研究者

・詩的な文体と心のこもった素敵な絵に感動しました。障害の子に対して、学生さんの理解が深まるといいと思います。

B：保育者養成教育者

・母親の気持がよく伝わってきました。目頭が熱くなってきました。たくさんの方々、母親、学生に読んでいただきたい作品です。

・悩みもそのまま受け止めながら、「子どもと共に生きていく」と心が整理されていく母親の心の表現、そしてストーリーと絵がとてもマッチしているところが良かった。

・多くの母親、そして、保育者をめざす学生、父親にも読んでほしいと思います。

・ぜひ多くの方に読まれるようにして下さい。

C：障がい児施設職員

・お母さん方に紹介したいと思いました。お母さんが元気になって、前を向いて歩みだすためには、お母さんの心の深いところで「共感」することだと思う。障害をもつ子の特徴がシンプルによく表現されていると思います。

・障がい児をもつお母さんが読むと共感できると思います。

4.7 (言語聴覚士及び特別支援教育研究者、小児科医などの専門家)の感想、意見

外国人も含め言語聴覚士及び特別支援教育研究者、小児科医などの専門家の感想、意見(2010年5月-8月)である。

・ A very wonderful book with clear and simple text. The book touched our feelings.

Beautiful illustrations with soft colors.

Keep on - we hope that many parents and professionals will get the opportunities to read the book. (Monica Ingemarsson and Bjørg Øustebø from Norway)

「分かりやすくやさしいことばのとても素晴らしい絵本です。淡い色の美しいイラストで私たちの感性に訴える絵本です。どうかこの「絵本」づくりを継続してください。多くの保護者や専門家に「絵本」を読んでもらえることを願っています。」

(療育センター 特別支援教育専門家 モニカ他 ノルウェイ)

・ It's a very moving book and what love can do. A mother's love can do all the difference and how important that is. (Antoinette Brettel Grip from Sweden)

「大変感動する作品で、愛情は何をも可能にすることが分かります。母親の愛情は違っていることを乗り越え何もかも可能にするいかに大切なものでしょう」

(特別支援教育センター 言語治療教育専門家 アントアネット スウェーデン)

・ A beautiful story is emotional and moving. (Anne Marie from Denmark)

「素敵なお話に心打たれ、感動しました」

(言語聴覚士 アンネマリ デンマーク)

・ A beautiful book in lyric and impressing. It comes for a mother's heart into our hearts. It can be a very sweet and gentle way to explain to a child his own story with Down Syndrome. (Juman Tannous, Adi Neeman_ from Israel)

「抒情的なことばで質の高い美しい「絵本」に感動しました。母親の気持ちが私たちの心に伝わってきます。感じがよく優しい表現でダウン症の子どもについて説明されています。」

(言語治療教育専門家 ユマン&アディ イスラエル)

・ It was really touching. It must really help children to understand sick friends.

「本当に心にジーンときました。子どもたちが、病気のお友だちを理解するのに本当によい手助けになるでしょう」「最も良かった箇所は、"But when you smile , I smile , too." (それでも あなたが笑うと ママも笑顔になります) です。」

(医学部大学院生、小児科/韓国/ファン ス ギョン)

・ わかりやすいです。(小児科院生/北京/石 秀玉)

・とてもやさしいかたりかけです。・診断されたあとのママ、パパ、（兄、姉）の受け入れる心をあたたかく描けています。子どもたちにわかりやすいですね。

兄弟姉妹向けの本もあるといいですね。（A小児科医）

・とてもやさしい気持ちになります。本当に“大切な”なあなたは“大切”なのであって、障がいはあっても関係ないのですね。「大切な」あなたへの気持ちがやさしく伝わってきます。（B小児科医）

英文の意訳：平林あゆ子

5. 考察

（1）保育士への質問紙の回答から、「絵本」を何度も読みきかせることにより自分とは違う他者の存在に気づきその違いを受け止めることができるようになる効果が期待できる。

（2）インクルージョンを進めるためには、障がい児のいない園においても、障がい児を含め違いのある存在に気づき尊重できるように「絵本」が必要であることが分かった。

（3）「絵本」の読みきかせた際に、子どもから「うつるの？」などの偏見や誤解のある質問が出た場合には、保育者の経験などを交え具体的な説明を加えながら偏見を是正する機会ともなる。そのような際に、保育者は正しい知識でやさしいことばにより説明する能力が期待され、保育士養成や現職教育において、「障がい理解学習」の充実が望まれる。

（4）保護者の手記から、保護者への「絵本」の読みきかせは子どもが誕生した時の母親の喜びを絵本を通して再確認でき、子どもの存在の尊重に繋がったと思われる。家族の絆を再確認でき、子育て支援のツールとして有効と思われる。また、保育士が「保護者らが身近な障がいについて率直に保育士に話すようになり、多くの保護者と保育士との信頼関係を築ききっかけとなった」と述べているように、「絵本」は関係性を築く手助けとして有効であったと思われる。

（5）クラスで障がい児に接する機会がない場合でも特別支援学校等との交流の場を設定している園では、「絵本」の読みきかせは導入しやすく、そこから障がいについての気づきや問いかけが開始されるきっかけとなるようである。

（6）障がい児の保護者や兄弟姉妹の読後の感想から、家族の特別な想いや周辺の理解を願いながら過ごしていることが分かる。この「絵本」は周辺の理解に繋がり、親ばかりではなく障がい児の兄弟姉妹にとっても共感でき、負担が軽減されるツールとして有効と思われる。

（7）障がい児の保護者や現場の保育士らの意見から、「絵本」の幼児期からの導入の必要性が強く感じられた。しかし、障がいを扱った絵本は小学校中学年から大人向けのものが多く幼児が障がいを理解するための適当な「絵本」は少なく、「絵本」の更なる制作と普及を願う声が多くきかれた。

（8）保育関連の研究者や教育者は「絵本」を読むと障がいの理解が深まるので、保育者をめざす学生、多くの人、親に読まれることを期待している。障がい児施設職員は、保護者の心の深いところで「共感」できる作品と考え保護者に読まれることを期待している。

6. 今後の課題

今後の課題と方向を以下に記しておきたい。

（1）障がいの種類を広げて「絵本」を制作

専門家や障がい児の親の会等の意見から、自閉症やダウン症ばかりではなくもっと色々な種類の障がい理解の「絵本」の必要性が強く感じられた。

（2）「絵本」の効果測定と実践方法の検討

「絵本」の効果的な使い方について、実践方法やその効果を適切に評価する方法も含めて様々な角度から検討する。

（3）社会的不利な立場を理解するための絵本をジャンル別に収集し整理

社会的不利な立場を理解するための絵本をジャンル別に収集し、現場で活用しやすいように、どの年齢にどんな絵本をどんな提示方法で実践したらよいか等について整理する。

（4）「絵本」による障がい理解の基本概念（幼児期）についての探求

障がい理解の本質や意義について、「絵本」制作の実践や研究による知見に基づいて、系統的に整理し理念をまとめる。

付記：本稿において、「しょうがい」は筆者が先の紀要に論考した「障がい」と記す。尚、条約や法律名に関してはそのまま「障害」と記し、感想・意見などについては本人の記述どおりに記した。

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C平成22年度課題番号20530898）の助成により実施しているものである。